

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「センター試験後、国公立大2次試験や私立大入試に臨む生徒に どんな声かけや指導をしていますか」

▶志望校決定までの助言

センター試験で思うような点数が取れなかった生徒には、「勝負は下駄をはくまでわからない」と励まして、最後まであきらめないように指導しています。

後期試験の欠席率など具体的なデータを示し、見かけの出願倍率にだまされないことや、最後まで挑戦する気持ちを持つことの大切さを伝える。

国公立大志望者には、センター・リサーチの判定で浮かれたり落ち込んだりしないこと、センター・リサーチ後の面談に先んじて進路を決定してしまわないことを伝える。その上で、浪人も視野に入れるのか、現役合格を優先するのか保護者にも確認して、受験校を決定していく。その後は、本番まで講習で、本番に準ずる形式の問題演習を行う。

センター試験の自己採点結果を自己判断せず、担任とよく相談して、最後の結果が出るまであきらめず、最善の努力を尽くすことを強調している。

▶センター試験後の意識の切り替え

よく言われていることですが、センター試験の結果は忘れて次の対策に向けてひたすら学力の練成をはかるよう、訴えます。

とにかく切り替えて個別試験対策に取り組むことが大切だと伝えている。センター試験で失敗した生徒のケアも大切だが、予想外に自己採点がよかったために安心してしまい、個別試験になかなか気持ちが向いていかない生徒もいるので注意している。

「センター試験は、高校の学習内容の積み重ねで決まる。2次試験は、本人の思いの強さで決まる。本当に合格したいなら、何をすべきか考えよう。そして、やり残したことがないようにしよう」と話している。

「私立大は傾向を捉えて、これから本番までの1カ月間でいかに点数を積み上げるかが勝負。今までの模試の結果は気にせず集中して勉強したものが勝つ！毎年『こんな偏差値の先輩がこの大学に?!』という例は日本中どこにでもある」と伝えている。

「科目数が減っても勉強時間が減らないように、教材の組み合わせを考えよ！」と声をかける。勉強する科目がそれまで5教科7科目だったのに、3科目に減った生徒は、勉強量が減ることが多い。基礎固めと志望校対策の相互補完のサイクルを確立するため、教材の特徴を確認させ、進め方を面談で確定する。

▶個別試験に向けて生徒を励ます

「現役生は受験当日まで伸びる。いや、実際の受験を通じて伸びていく。最後の最後まで粘り強く頑張れ」「模擬面接だったら納得するまでつきあうよ」と声をかけている。

「これからの数週間の追い込みでまだまだ学力は伸びるから、最後まであきらめずに頑張ろう！」と励ましている。

「今までやってきた問題を完璧にしよう。一回でも見たことのある問題や、同じ傾向の問題は、他の受験生もできるはず。できなかったら悔しいし、合格はできない。見たことのない問題は、ほとんどできる人はいない。だから、基本・復習は怠るな」と指導している。

「私立大も国公立大も、ともに力をつくして最後までがんばりなさい。両方とも合格して、自分でどちらの大学に行きたいか選べるといいね。2次試験対策の指導をしたお礼は、ちゃんと受験をして(いい結果であれ、悪い結果であれ)その報告をしてください」と伝えている。

「2次試験で逆転する受験生はいくらでもいます。人より1問、2問多く解いてくれれば良いだけのことです」とリラックスさせている。